

Course number	U-LAS05 20001 LJ40				
Course title (and course title in English)	文化人類学各論 I Topics in Cultural Anthropology I		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Professor, KAZAMA KAZUHIRO	
Group	Humanities and Social Sciences		Field(Classification)	Regions and Cultures(Issues)	
Language of instruction	Japanese		Old group	Group A	Number of credits 2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters 2024・First semester
Days and periods	Tue.3	Target year	All students		Eligible students For all majors
[Overview and purpose of the course]					
<p>文化人類学は、西欧近代が文化的他者と接触し、文化的他者を支配するなかで歴史的に形成されてきた学問である。文化人類学の現代性を考えるうえで、学問のたどってきた歴史的経緯を振り返る必要がある。</p> <p>本講義では、文化人類学の成立期に関わる西欧近代と非西欧の文化的他者との接触のあり方を概観したうえで、植民地主義の台頭と人類学の関係について考える。さらに、現代世界における他者との接触が、いかに記憶され伝承されるか（あるいは忘却・隠蔽されるか）、想起の場における景観・モノ・語りに着目して分析する。そして、他者との接触による文化の創造や抵抗、共生のあり方について考察したい。</p>					
[Course objectives]					
文化人類学の歴史的展開を理解することを目指す。現代世界において生起する諸事象について、受講生自らが人類学的に考察できる思考法を養うことを目標とする。					
[Course schedule and contents]					
以下の項目につき、1～2回の授業を行う。					
1．グローバル化時代の人類学 1-1．人類学の時代区分 1-2．人類学と現実批判 1-3．グローバル化と 帝国 論 2．植民地主義と人類学 2-1．閉鎖系としての社会・文化 2-2．他者表象と自己表象 2-3．他者接触による創造と抵抗 3．歴史・記憶の人類学 3-1．歴史経験と記憶 3-2．景観・モノと想起の場 3-3．想起と感情・身体 4．排除と強制移住 4-1．都市に居住する先住民					
Continue to 文化人類学各論 I (2)					

文化人類学各論Ⅰ(2)

- 4-2 . 強制移住と自己認識
- 4-3 . 現代世界における混淆と分離

- 5 . 総括 変転する現代世界と人間

[Course requirements]

人類学関連の基礎科目（文化人類学 ・ 、生態人類学 ・ ）を履修済みであるか、併せて履修することが望ましい。

[Evaluation methods and policy]

平常点（出席状況等30%）および小試験（70%）による。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業後は、ノートを見直すのみならず、授業中に提示した文献を読み込んで、思考を深める。自ら思考する姿勢が求められる。

[Other information (office hours, etc.)]

講義室に収容可能な人数を上限として、受講者数を制限する。希望者が制限を越えた場合には、KULASISによりランダムに選抜する。